

第2回社会的養育推進計画策定検討部会議事録

○日 時：令和6年1月18日（木） 14:00～16:00

○会 場：はぐくみかん5階・会議室4

○出席委員（50音順、敬称略）：

岸川洋治、澁谷昌史、谷英明、仲嶋久義、原田修二、村田陽子、吉田尚子

○事務局：

（こども家庭支援センター）櫻木センター長

（こども家庭支援課）山田課長、渡邊係長、高橋係長、鈴木主査、矢野、古澤

（児童相談課）深井課長、綿引課長補佐、長谷川課長補佐、栗野主査

（地域健康課）小林課長補佐

○議事内容

≪ 1 開会 ≫

（1）定足数報告

全委員出席のため、本検討部会は成立していることを報告。

（2）傍聴人報告

「横須賀市児童福祉審議会の会議の傍聴に関する実施要領」にもとづき、定員内の1人の傍聴であることを報告。

（3）資料の確認

《 2 議事 》

(1) 検討部会の今後のスケジュールについて

事務局から、今後のスケジュール（資料1）について説明を行い、委員の了承を得た。

(2) 次期計画の骨子について

事務局から、次期計画の策定要領の記載事項及び基本的な考え方、次期計画の骨子案（資料2及び資料3）の説明を行った後、意見交換及び質疑応答を行った。

<谷委員>

資料2（1）について、国の基準としては養育の区分は4つあり、施設養育、施設の小規模化・高機能化による養育、特別養子縁組と里親、ファミリーホームの家庭的養育、実親による家庭養育である。現在7割を占めている施設養育を、3割を占めている里親を含めた家庭的養育に移行していき、最終的に75%の里親等委託を国は考えている。また、パーマネンシー保障は、永続的人間関係の保障、特別養子縁組を表し、国はこれを推進しようとしている。

資料2の（13）で「里親支援センターの設置の検討」とあるが、前期の社会的養育推進計画策定検討部会の中で、フォスタリング機関を市内に2か所ある児童養護施設に任せたいという話だったが、最終案では計画の中から落とされていた。里親支援センターの設置に関しては、きちんとした形で立案していただきたい。

<事務局：こども家庭支援課長>

横須賀市は中核市で、現状は児童相談所がフォスタリングを実施しているが、今後里親が多くなっていくことを考慮すると、里親支援センターの設置も検討課題として挙げておく必要がある。

<谷委員>

全国里親会などの情報から、里親支援センターの設置は義務化されたと聞いている。職員は最低4名で、人件費は国の義務的経費で支払われるとのことである。今までのフォスタリング機関は規模が大きかったが、これに関してはそこまで大きくなくてもよいとのことである。設置が任意なのか義務なのか確認してもらいたい。

<澁谷部会長>

国の施策方針等を踏まえながら、検討の中でしっかり触れていく。現状維持でいいわけではなく、児童福祉法に基づいて体制を整えていく。計画書の中でどのような表現をするのかは議論していくこととする。

基本的には策定要領に基づいて反映した検討内容を盛り込んでいくこととし、そのほかは原案を反映して検討部会において決めていくことでよろしいか。

(異議なし)

大枠についてはこの通りに進めることとする。

(3) 社会的養育に関するアンケート調査について

事務局から、資料4から資料9について説明。

検討部会終了後、委員からメールにて意見を募集し、意見を反映した上で、2月～3月初旬にアンケート実施としたい。平成31年に実施した前回のアンケートに、小規模施設、自立支援コーディネーター、アドボケイトに関する質問項目を加えたものとしたい。

<澁谷部会長>

子どもの声を計画に反映することはやらなければならない事項である。アンケートを実施することについての是非はいかがか。

(異議なし)

アンケートについては実施する。そのうえで、目的、対象、質問項目などについて協議したい。

<谷委員>

資料4の調査対象について、委託解除後に所在を把握できていない者もいるが、実施できるかどうか確認してから発送するのでよいか。

<こども家庭支援課係長>

児童相談所に事前に確認して依頼するが、現時点で所在がわかる方をお願いできればよい。

<谷委員>

資料7の6ページ8番で、児童養護施設のことを知っているか聞いている。下の解説の中で市内の児童養護施設の名前を書いてはどうか。児童養護施設と言われても小学4年生くらいだとグループホームや障害者施設などと、区別がつきにくいのではないか。

<こども家庭支援課係長>

確認し、書けるようであれば名前を入れていくこととする。

<谷委員>

資料7の8ページ11番で、勉強についてどう感じているか聞いているが、塾の先生から教わってくるかもしれないと思われ、塾を入れてはどうか。

また、16ページ22番で、アドボケイトということで、あなたの気持ちや意見を聞いてくれる人ですと書いてあるが、実際はどのような職員を想定しているのか。

<こども家庭支援課係長>

弁護士を想定している。

<谷委員>

児童福祉審議会との繋がりがあるので事務局をやっている職員でもいいのではないかな。

最後に資料9のアンケートの表紙で、児童養護施設や里親・ファミリーホームで生活されたことがある方ということで書いてあるが、アンケートの中を見ていくと、施設等と書いてある。表紙等に、本文では施設等に里親やファミリーホームが入ると書いたほうがよい。

<村田副会長>

資料9、児童養護施設等経験者用のアンケートの冒頭には、どうしてこのアンケートをお願いするのかという趣旨が簡単に書いてあるが、他の4つにも、そういう説明文を入れたほうが良い。小学生であってもアンケートの趣旨目的はやっぱり漠然とでも気になると思うし、このアンケートは何に使われるのかというところで答え方が変わってくるだろう。

全体的に質問項目がすごく多いので、その趣旨目的との関係を見て、本当に必要なかどうか確認し、場合によってはもっと削減して簡単にするとよいと思う。

また、その他の欄が1行程度のカッコになっているが、もっと大きく作るとか、または別の紙をつけて出してもいいなどしたほうがよい。

あと今回はアンケートだけでなく別の方法での子どもの意見の聴取を予定しているので、希望があれば直接聞くこともあるということを入れてもいいのではないかな。

匿名だが、質問項目によっては答えたのが誰なのか特定されてしまうものもあると子どもは感じると思うので、聞き方について考慮したほうがよい。

<こども家庭支援課係長>

アンケートの目的を、なるべく簡潔に入れていきたい。

項目数については、児童相談所と相談し、削れるものや合わせられるものがあれば検討したい。前回の調査と同じ項目もあるので、経年変化を見るのが必要かどうかも検討したい。

自由記述欄は増やすことや、最後に1枚つけるなど、検討したい。

直接聞く部分はどうやって実施するのか国から示されないのが不明だが、わかる範囲でこれとは別に、ワーカーなどから口頭で伝えていただくことを考えている。

誰が答えたか特定される可能性があることについても、匿名性が保たれるよう検討したい。

<原田委員>

施設の側として子どもたちが一人で答えられるのかというと、かなり難しそうであるが、施設職員などがそばについて実施すると、だれが答えたか特定される懸念がある。

<こども家庭支援課係長>

少しでも質問量を減らせる方向で考えたい。

施設の方にはご多忙の中恐縮だが、わからないところは子どもに説明いただきたい。

<岸川委員>

基本的にはアンケートは予測や仮説があり、資料2にある基本的な考え方にある項目に沿った設問であるべき。この項目に関連性がある部分に絞ることができないか。

<こども家庭支援課係長>

今回の方針にあった質問項目を優先して選び、どこまで削れるか考えたい。

<谷委員>

この設問数は、子ども・子育て分科会で実施したアンケートより少ないが、そちらのアンケートでは、親は、説明はするが回答は見ない、というやり方で実施した。このアンケートも、施設において説明をしてもらい、回答は子どもにまかせ、守秘義務については事前に話し合ってもらうなどの方法でやったほうがいいのではないか。前回と比較していかないといけないものがあれば載せないといけないし、必要最小限のもので実施できるとよい。

<こども家庭支援課長>

今回は子ども・子育て分科会に比べれば少ないものの、優先順位に沿って項目を精査したい。

<こども家庭支援課係長>

極力設問は精査していく。出し方については、封筒を子どもに渡して、両面テープで封をして出してもらうことで匿名性を担保することを考えている。

<澁谷部会長>

項目は精査しないとイケないが、アンケートと計画の連動について、普段の生活に関するアンケート回答が具体的に計画に連動性があるのか、そこから課題が見えて計画に反映させられるのか、どう方針に結びつくのかを説明していけるようにしたい。

具体的に計画の中で、例えば勉強頑張ってるから学習支援つけようとかいうような話になれば、わかりやすい。しかし里親さんを知っているか聞いたときに、知らないとなると、どうすればよいか。その辺りの課題も見え、正確に反映させるといいのかもしれないが、市として事業なりその計画の方針に具体的にどう結びつくのかというところは説明できるような状態にしていく必要があるだろう。

<こども家庭支援課係長>

後からお気づきになった点について、フォーマットを送らせていただくので、そちらに記入して1月25日までに事務局にご意見をいただきたい。

会議でお出しいただいた意見と、後程出していただいた意見をもとに、修正したアンケートを正副部会長と事務局にご一任いただけるということをご了承いただきたい。

<澁谷部会長>

アンケートについてはこのように進めていくことでよろしいか。

<谷委員>

横須賀市の措置でない子もいるので、横須賀市のアンケートであることを明記していただきたい。

《 3 報 告 》

(1) 母子保健の取り組みについて

地域健康課小林課長補佐より、資料 10 に基づいて説明。

(2) 里親の現状と課題について

児童相談課栗野主査より、資料 11 に基づいて説明。

《 4 閉会 》

＜こども家庭支援課課長＞

第 3 回検討部会の開催は 3 月を予定。詳細な日時は、追って開催通知でご案内する。

*この議事録は、委員等の発言を事務局において要点筆記したものです。

以上